

黒住教 ホームラーニング #1



黒住教は、備前岡山藩の守護神社・今村宮の神官であった黒住宗忠（一七八〇〜一八五〇）が、江戸時代（文化十一年十一月十一日・西暦一八一四年）に開いた教派神道です。幕末三大新宗教に数えられ、神道十三派の草分けです。死を覚悟するほどの病を克服した宗忠が、満三十四歳の誕生日であった冬至の日に、昇る朝日を拝む「日拝」の最中に入

陽気

家の内に鈴のなるこそめでたけれ
ただ何事もかりからりと
家内じゅうなかのよいのが神かぐら
高天の原で笑う鈴の音（黒住宗忠）



宗忠「『平和な家庭と不和な家庭』という話をしましょう。平和な家庭では、おじいさんが大鍋を買って帰り、内庭に降ろして上がり口に腰かけて一服していると、何も知らない息子が二階から割り木を投げ下ろし、鍋が割れる音で初めて気づいて駆け下りてきて、両手をつけて謝りました。おじいさんは、こんなところになべを置いた自分が悪かったと言い、奥から出てきたおばあさんは、自分がすぐに片付ければよかったと詫げる。むすこの嫁は、主人が二階にいることを知っていた自分こそ取り片付けるべきでしたと謝罪する。おじいさんは、誰の罪でもない、けががなくて何よりだったと微笑みました。一方、不和な家庭では、おじいさんが上がり口に置き忘れていた徳利を、帰宅したむすこが誤って蹴転がして、こんな所に徳利を置いて…と大声を出す。お前が気をつけないからだと言句を言うおじいさんに、通り道に徳利を置いた方が悪いと責めるおばあさん。腹を立てたおじいさんから、お前がさっさと片付けないからだど怒鳴られたおばあさんは嫁を呼びつけて、自分は目が薄いものだから、気がつかなかったお前が悪いと当り散らす始末。結局、この家では收拾のつかない大喧嘩になりました」

平和な家庭では、お互いが一歩下がるから丸くおさまりますが、不和な家庭ではお互いが譲ろうとしませんから、このようなことになってしまふのですね。

ポイント

宗忠「ところで皆様、鈴木家の鈴をご覧になりましたか？まことに結構な、みごとな鈴です。ぜひご覧ください」
人々は「一体、どのような立派な鈴だろうか」と、あれこれ思いを巡らせながら鈴木家を訪ねましたが、結局、誰一人それらしき鈴を目にするにはできませんでした。
後日、宗忠は「それは形のない、家内じゅうに睦まじく打ち鳴らされる鈴のことです」と笑顔で話したとのことでした。
いつも明るく、笑い声の絶えない鈴木家を称えて宗忠が詠んだと伝わるのが冒頭の和歌です。

☆このお話を読んだあとに

これまでの人生で、理不尽に思える出来事に出会った時、あなたはどのようにしていたでしょうか。
素直な気持ちでにを入れてみてください。

- ストレスを感じていた
- 前向きにとらえる
- 他人のせいにしていた
- その他

☆このお話を読んで、これからは

「陽気」や「他人を気遣うこと」について、あなたの周りで身近におこったことや体験などがあれば、教えてください。特にない方は、今後の生活において小さな（思いやりにかかわること）目標を教えてください。



天啓を得て、天照大御神と一体になるという「天命直授」の宗教的体験をして立教しました。その教えは、一切万物すべての親神が天照大御神で、その尊いはたらきの中であらゆるものが存在し、人は天照大御神の「分心」をいただいた神の子であるという世界観です。（本文中では「教祖神」「宗忠様」などの表現をしません）

祓はらい

鬼追わず福を求めず我はただ
追われし鬼を福にみちびく (黒住宗忠)



江戸時代末期、ある節分の豆まきが終わった時のこと。

宗忠「今年の節分は、格別に有り難かったですね」

妻「格別とは…」

宗忠「最初のかげ声は『福は内、鬼は外』でしたが、いつの間にか『福は外、鬼は内』となっていて、それが実に面白く、格別に有り難いと思ったことです」

妻「それは大変失礼なことを…。これからやり直します」

宗忠「今夜は、どの家からも鬼は追い出されて寒さで震えていることでしょう。一軒ぐらい暖かく迎え入れる家があってもよいではないか。また、どの家も福を取り入れようと懸命になっていきますが、それではせっかくの福も少なくなってしまう。結局はホンの少ししか来ないことになるでしょう。これも、一軒ぐらいは福をよそに譲る家があってもよいではないか。心配はない。もしも、鬼が内に入ってきたら、その鬼を福に導いてあげよう」

奥さんの過ちを心温かく受け止め、びょうふさいなん病苦災難という「鬼」を切って捨ててしまうのではなく、「福」を惜しみなく他者に与える姿は「活かし上手」といえるのではないだろうか。こうしたやりとりの中、黒住宗忠によって詠まれたのが冒頭の和歌でした。



福

ポイント

宗忠は「祓はらいいは神道しんどうの首教しゅきょう（最も大切な教え）なり」と教えました。常つねの祓はらい・心の祓はらいと呼ばれる「祓はらい」の大切さがこの話からうかがえます。

現代社会を生きる私たちも「福は外」の実践に心がけ、互いに福を与え合えるようになりたいものです。そして、わざわざ鬼を迎え入れるまでもなくとも、いつの間にか気付かないうちに受け入れてしまったりしていた難なん（鬼）を「大難だいなん」にしてしまうか、「小難しょうなん」に、さらには「無難ぶなん」に片付けられるか、そしてさらに一歩進んで「有り難い」（有難ありがた）ものへとできれば素敵なことですね。

☆このお話を読んだあとに

これまでの人生で、つらいことや悲しいこと、良くないことが起こった時、あなたはどのようにしていたでしょうか。

素直な気持ちで に を入れてみてください。

- 忘れる 今後にかす 思い悩む 祈る

☆このお話を読んで、これから

「祓はらい」や「活かし上手」について、あなたの周りで身近におこったことや体験などがあれば、教えてください。特とくにない方は、今後の生活において小さな（ちよつとした）目標を聞かせてください。



悠々

かんにんをするよりもとの腹立てな

腹し立てねばかんにんもなし (黒住宗忠)



江戸時代末期、ある大庄屋さんのお宅の座敷には「堪忍」と書かれた額がありました。

大庄屋「おかげさまでわが家は大変繁盛していますが、家の内外で多くの人と接する際に堪忍をしませんと無事に過ごせません。そこで、この額を朝夕に見ては反省しています」

宗忠「それは結構なことですが、いっそのこと**堪忍もしない方がよろしい**でしょう。腹さえ立てなければ、堪忍も要りません」

こうしたやりとりの中に、宗忠によって詠まれたのがこの和歌です。「腹を立てない」とは「腹を立てないように我慢する」と考えがちですが、たとえば下から火を炊き付けながら蓋をして押さえ込んでみれば限界があるように、無理をして上から押さえ込むのではなく、最初から火を起ささないようにつとめる心掛けであること示すエピソードでした。

「ストレス社会」と言われる今日ですが、自己主張による人間関係の軋轢などが原因で生じるストレスと、逆に軋轢を避けるが故に自分を押し殺すことで生じるストレスがあるといます。

自他ともに「活かし上手」に生きることは大変難しいことですが、わが心を痛め損なわないための大切な道のりなのです。



ポイント

ポイント

腹立てな物を苦にすな悪もすな 天の恵みて福德をます

宗忠「この歌を書いた紙を家の中のあちらこちらによく見えるように貼り『腹立てな』、『物を苦にすな』、『悪もすな』こればかりを専心してつとめるとよいでしょう」

主人は大変喜び、玄関から居間や台所、果てはトイレの壁にまで三十枚ばかりの紙のほとんどを貼り終えると、

主人「最後に一枚だけ余りましたのでお返しいたします」

宗忠「どこか、まだ貼るところがあるでしょう」

主人「いや、もうどこにもございません。よく考えて、貼るべきところには全部貼りました」

宗忠「そうですか…。それでは、その残った一枚は、**あなたへのソの裏に貼っておくとよい**でしょう」

☆このお話を読んだあとに

これまでの人生で、ストレスを感じた時、あなたはどのように対処をしていたでしょうか。

素直な気持ちで に を入れてみてください。

- 腹を立てていた 自分の中にためこんでいた
- 思い悩んでいた 自分の中で消化できていた

☆このお話を読んで、これからは

「ストレス」について、あなたの周りで身近にあったことや体験などがあれば、教えてください。特になくはない方は、ストレスをためないための方法や、あなた独自のコツなどがあれば聞かせてください。



心直し

ここも憂うれしまたり行くさきも憂うれかりけり
おなじ月日つきひにおなじ身みなれば（黒住宗忠）

江戸時代末期、かつての隆盛を失って経営不振に陥っていた炭屋の主人が大阪への夜逃げを思い立ちました。

宗忠「大阪へ行って、何をなさるのでですか？」

炭屋「店があのような状態ですから、いっそ住む所でも変えてみたらと思ひまして…」

と、答える炭屋に、宗忠が示したのが冒頭の和歌です。

宗忠「今、あなたが行くこうとする先も、同じ月日が照らしています。同じあなたでは全く何も変わりません。それよりも思い切って、生活に必要な物だけを残して不要な物を全部売ってしまい、それで得たお金であなた自身が炭を山に買い出しに行き、あなた自身が車を引いて炭を売ってみては」

炭屋はその言葉に従い、家財一切を売り払い、それを元手に単身商売を始めました。それまで、手代や番頭がこつそり懐に入れていた分だけ炭も安くなり、また、大旦那おおだんなが車を引いて商あきないを始めたと評判になり、皆感心して注文が相次ぐようになつて、やがて一人では手に負えなくなつて人を雇い、三年もたたぬうちに元の繁盛を取り戻したのでした。

この炭屋の主人のように、難問に思い悩む人に対してだけでなく、宗忠は「善人の罪をつくるな」と、普段からの「心直し」の大切を話していました。次に紹介するのは、深い悩みを抱えた女性とその同行者が訪ねてきた時のお話です。



ポイント

宗忠「（悩みのある女性に対して）貴女は、この庭からなるべく大きな石を持ってきてください。（同行した女性に対して）貴女は同じように小さな石を沢山たくさん持ってきてください」
やがて、それぞれの石を持ってきた二人の女性に対して、宗忠「それでは、今持っている石を庭に元あった通り、向きも元のまま戻してみてください」

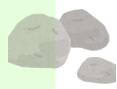
大きな石はどこにあったかすぐに分かりませんが、小石はなかなか元通りに戻せるはずはありません。

宗忠「取り返しのつかないような大きな罪でも、心を入れ替えることで償つぐなうことはできます。しかし、平素、気付かないうちに犯している小さな罪は償つぐなうことはできません。善人の罪こそ、普段から最も気を付けなければならぬことです」と優しく諭されたといひます。

☆このお話を読んだあとに

これまでの人生で、自分がとても乗り越えられないと感じた時、あなたはどのようにしていったでしょうか。人生の試練だと感じ、頑張がんばつてみた経験など、様々な体験談があることでしょう。ここでは「自分が変われば世界は変わる」というメッセージとともに、自分でも知らず知らず、気付かないうちに犯している罪（本文では『善人の罪』と言っています）があるのでは、ということでした。

あなたが苦しかった時の気持ちについて、簡単でよいので記入して教えてください。



おわりに

今回の黒住教ホームラーニングでは「陽気」「祓」「悠々(ゆとり)」「心直し」の四つのテーマから学びました。それぞれの項目において、黒住教学院ホームページの専用フォームより簡単にご記入、ご回答ください。このページをプリントアウトして、直接記入してお送りいただくこともできます。その場合は左欄に必要事項を明記の上、FAXにて送信してください。

氏名

あなたの
FAX番号

陽気 ようき

「記入例」この話を読んで、私は陽気に暮らすとはどういうこと…

コメント欄
「この欄には何も書かないでください」

☆このお話を讀んだあとに

これまでの人生で、理不尽に思える出来事に会った時、あなたは どうして いたで しょうか。
素直な気持ちで に を入れてみてください。

- ストレスを感じていた 前向きにとらえる
- 他人のせいにしてた その他

☆このお話を讀んで、これから

「陽気」や「他人を氣遣うこと」について、あなたの周りで身近におこったことや体験談などがあれば、教えてください。特にない方は、今後の生活において小さな(思いやりにかかわること) 目標を教えてください。(無回答可)



祓 はらい

☆このお話を讀んだあとに

これまでの人生で、つらいことや悲しいこと、良くないことが起こった時、あなたは どうして いたで しょうか。
素直な気持ちで に を入れてみてください。

- 忘れる 今後にいかす 思い悩む 祈る

☆このお話を讀んで、これから

「祓い」や「活かし上手」について、あなたの周りで身近におこったことや体験談などがあれば、教えてください。特にない方は、今後の生活において小さな(ちよつとした) 目標を聞かせてください。(無回答可)



	コメント欄
--	-------

	コメント欄
--	-------

